

研修期間：令和 5 年 2 月 12 日～24 日

所属：名城大学薬学部薬学科

学年：5 年

学籍番号：180973227

氏名：木村華花

1. 参加目的

1 年のときに海外臨床薬学研修を知り、ずっと行きたいと思っていたのと、アメリカの薬剤師は職能が広いと聞いてどのような点が違うのか実際に現地で見たいと思った。そしてそのような薬剤師になるために大学でどのように学んでいるのかを知りたかった。

また私は OTC 医薬品や日用品の商品開発に携わりたいと考えているため、アメリカのドラッグストアで売られているものに興味があった。OTC 医薬品はどんなものがあるのか、ニーズなどを学びたいと思った。

2. 研修内容

【研修テーマ】 アメリカと日本の薬学部、薬剤師の職能、医療制度の違いを知る。

【研修日程】

月日	研修内容
2/13	オリエンテーション、アリゾナ大学の紹介、薬学教育について、貧血の薬物治療の講義、救急薬剤師による講義
2/14	アリゾナ大学フェニックス校にてキャンパスツアー、遠隔医療について、病院薬剤師の仕事内容について、アリゾナ大学学生とディナー
2/15	精神専門の薬剤師の講義、レジデント生の発表（抗菌薬）、オンライン教育について
2/16	医療連携教育について、予防接種における薬剤師の役割、ポイズンセンターの紹介
2/17	アリゾナ大学附属病院の見学、夜にバスケット試合観戦
2/20	アメリカの医療制度、保険について、アリゾナ大学図書館の紹介、がんセンター薬剤師の講義、薬局レジデントの一日について（症例発表）
2/21	調剤薬局併設ドラッグストア（CVS）の見学、ストレスとの向き合い方、レジデント生の発表（感染症）、学生とのディナー
2/22	エビデンスに基づく医療と臨床診療のガイドラインの講義、レジデント生の発表（安全で効果的なオピオイド処方）、医療統計についての講義

【研修内容の詳細】

- アメリカの薬学教育を学んだ。アメリカでは最初に 2~4 年制の専門学校や科学系の大学の学部に行き薬学部への受験資格を得る。その後、薬学部に入學してより専門的なことを学ぶ。薬学部を修了すると、PharmD という学位が与えられ、国家試験を受験することが出来る。国家試験は全米共通の薬剤師国家試験と州ごとの薬事法規に関する試験でどちらも合格すると、薬剤師として働ける。
- アメリカの薬剤師は処方権を持ち、医師の処方を必要とせずに薬を調剤することが可能であると知った。またワクチン接種も可能なので、そのために学ぶことやコロナワクチン接種で薬剤師が活躍した話を聞いた。

- 病院見学では薬局の中を見せてもらった。調剤ロボットが導入されており、薬剤師は患者の処方チェックしたり、監査したりしていた。無菌操作や抗がん剤調製はテクニシャンがしていた。病棟の各階に調剤する場所があり、その病棟専門の薬剤師が常駐していた。
- ドラッグストアの見学では調剤薬局の薬剤師の話を聞いた。ここでもテクニシャンが調剤していてロボットも導入されていた。またワクチン接種場所や小さなクリニックもあった。
- ポイズンセンターではアリゾナ特有の毒をもつ、トカゲ、蛇、サソリが飼われていて毒の治療法などの研究をしていた。救急科にもその毒による患者も多く来るとのことだった。

3. 感想

まずアリゾナ大学に行って驚いたのはキャンパスがとても広く、建物内が開放的だということだ。建物内には生徒同士で話し合える部屋があり、プロジェクターやホワイトボードなど設備が整っていた。図書館には壁で仕切られているパーソナルスペースやリラックスしながら勉強できるところがあり、集中して取り組める環境だった。フェニックス校では疲れたら休めるスペースや卓球台など息抜きできるところがありびっくりした。自由度が高いキャンパスにすごく魅力を感じた。

大学で学生と一緒に講義を受けたとき、学生が積極的に質問しているのが印象的だった。それぞれの席にマイクがついていていつでも発言できるようになっていた。またレジデント生の発表では飽きさせないように途中でクイズを入れるなど工夫されていた。先生との距離も近く、いつでも質問してきていいよと言ってきて対応していたり、よく生徒と談笑していた。

講義を聞いて思ったのは知識を広く学んでいるということだ。私が大学で学んだ治療法よりもっと詳しく、疾患自体の知識も求められるのでとても難しく感じた。レジデント生の発表も新しい薬の臨床試験についてなどとても専門的であった。

また臨床実習は日本とかなり違いを感じた。早期から行っているということと、半年間のなかでも病院、薬局だけでなく成人急性期や外来診療などいろんな科をローテーションして実習を行うことが出来る。7回転のうち、自分で選択できる科目もある。いろんなところで実習できるのはその科についての勉強になり様々な経験が積めると思った。

ドラッグストアではOTC医薬品の数の多さに驚いた。日本では売っていないPPIやコルチコイドなどがあった。それぞれの種類の薬がとても充実していて、睡眠薬であるメラトニンは子供も使っていると聞き、アメリカ人にとってOTC医薬品の需要は高いと思った。アメリカは日本と違って医療費が高額なので病院にはすぐに行かず、ドラッグストアの薬で治療することが多いと学んだ。だからこそ薬剤師が患者の相談に乗って薬を選ぶことも求められていると分かった。

今回、二週間の研修でコロナの制限もあり病院見学などは十分には出来なかったが、海外の医療や薬剤師の働きを知ることで自分にとって、とても刺激になった。また薬学を学んでいるから出来ることの視野が広がった。この貴重な経験を今後に活かしていきたいと思う。

最後に、海外臨床薬学研修でお世話になったアリゾナ大学や名城大学、関係者の方々に深く感謝申し上げます。